

医仁会武田総合病院

# 患者サポートセンターだより

2023年9月号



## 特集 糖尿病センター

医仁会武田総合病院 患者サポートセンター

0120-72-6530

075-572-6530 (直通)

075-572-6276 (直通)

受付時間：月～金曜日 午前 8:30 ～ 午後 19:00  
土曜日 午前 8:30 ～ 午後 17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただいております。  
※時間外は医事部にて対応いたします ▶ ☎ 075-572-6331 (代表)



医仁会  
武田総合病院



理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R  
(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進



患者サポート  
センター

## 糖尿病センター特集

### 循環器合併症精査 最近著明に進化の糖尿病治療薬 多職種チーム医療での教育入院

当院糖尿病センターは、地域医療連携を重視しています。ご紹介いただいた患者さんにつきましては、外来で単純心臓CTによる冠動脈硬化評価等の循環器合併症精査や、眼科での網膜症検査をさせていただいております。とくに冠動脈硬化評価では冠動脈硬化が高率で発見されます。こうした合併症の発見は、患者さんの治療開始の動機付けにつながると考えています。

近年、糖尿病治療薬・肥満症治療薬は著明に進化しており、私は第3相治験代表者を努め、現在もアドバイザーをするなど能動的に関わっています。当科では、循環器合併症予後を改善し、患者さんのQOLを改善するこれら新薬を積極的に導入しています。

入院においては、食事療法、運動療法など多職種によるチーム医療に力を注いでいます。改善後はすみやかに紹介元の先生のもとで治療を継続していただいております。また、発症初期や軽症の患者さんの教育入院にも対応しておりますので、入院目的でお気軽にお声がけいただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

糖尿病センター長 細田 公則



### 看護部

私たち糖尿病療養指導士は、患者さんが無理なく糖尿病と折り合いをつけて生活していくために、患者さんの想いや日常を大切に、多職種チームで支えています。

糖尿病外来では、糖尿病療養指導士が常駐し、さまざまな療養相談を行っています。CGM(リブレ・DexcomG6)を導入しているほか、フットケア外来や透析予防指導外来にも力を入れています。

入院では、糖尿病専門病棟、地域包括ケア病棟と連携しながら糖尿病入院をチームで支えています。



### 薬局

今日の糖尿病治療において薬物療法は目覚ましく進化を続けており、次々と新しいお薬が登場しています。

当院薬局では、様々なお薬について丁寧に患者さんへ説明を行い、薬を処方する医師に相談、副作用チェックをしながら、安心・安全な薬物治療を提供しています。



### 疾病予防センター

医師の指示のもと、運動療法を担当するのは専門知識を習得した健康運動指導士、理学療法士です。病態や身体活動量などを把握し、ストレッチ体操や有酸素運動、筋力運動を行います。また、これらをご自宅でも継続できるように、運動習慣が身につく働きかけを行っています。



### 栄養科

私たちの、毎日の生活で欠かせないのが食事です。

当院栄養科では、医師の指示に基づき、患者さんの食生活状況をお聞きし、それぞれのライフスタイルに合わせたより理想的な食事に近づけるよう、改善ポイントを一緒に考えて、そのお手伝いをさせていただいています。



### 臨床心理士

糖尿病患者さんの心理的負担になっている環境や背景を全人的(身体・心理・社会的)な視点で捉えチームに情報共有することで、治療を円滑でより効果的なものにしていくのが臨床心理士の役割です。面談では生活習慣病との付き合い方の説明や治療の動機づけなどの支援も行います。なお、臨床心理士による心理面談は入院患者さんのみを対象としています。

## 糖尿病・肥満症薬の著明な進歩 インスリン、SU、DPP-4からSGLT2、GLP-1関連薬の時代へ

### ■ GLP-1やSGLT2阻害薬等の登場

低血糖が起きにくく、脳心血管や腎臓の悪化抑制し、体重が減少傾向になります。週1回注射or経口薬でQOLが向上することが期待されます。教育入院も合わせると著明な改善効果がみられます。特にGLP-1は摂食抑制があり、退院後のリバウンドを抑制します。HbA1c8以上の高血糖や肥満のある場合、教育入院もされる事をお勧めします。

SGLT2阻害薬	GLP-1受容体作動薬			糖尿病用剤
体重減少効果あり、低血糖リスクが少なく、一部の薬で心不全や慢性腎臓病にも適応	低血糖リスクが少なく、腎不全でも使える。脳・心血管・腎疾患の悪化抑制			ツイミーグ
	トルリシティ	オゼンピック	リベルサス	体重増やさず低血糖リスクが少ない。メトホルミンに構造的類似だがDPP-4に近い位置付け
	週1回注射 体重増やさない 痩せた方、高齢者向き	週1回注射 8%/年の体重減少	毎日経口 8%/年の体重減少	

GLP-1関連薬として10-20%体重減少効果の薬剤や、絶食不要の経口薬の開発が進んでいます。GLP-1関連薬は肥満症薬として開発進行中ですが、最適使用推進ガイドライン対象として限定的な使用が期待されます。

### 糖尿病チーム

	部長	髭 秀樹
	部長	中前 恵一郎
	副部長	船曳 あゆみ
	部長	大屋 秀文
医師	医師	坂崎 のり子
特定看護師	副主任	武内 さやか
薬局	薬局長	馬瀬 久宜
疾病予防センター	科長	今井 優
栄養科	科長	木村 和子
臨床心理士		齋藤 千紘

### 多職種カンファレンス

毎週金曜午後に、糖尿病センターは多職種カンファを開催しています。医師、看護師、管理栄養士、健康運動指導士、臨床心理士、薬剤師、患者サポートセンター、医事などが集まり、患者さんごとに情報共有し、問題点、治療方針を相談するなど、患者さんの改善に向けチーム医療を行っています。



カンファレンス



フットケア外来



療養相談

# 糖尿病センター特集


地域から医仁会へ→糖尿病の入院目的で紹介→外来で循環器合併症精査入院に特化した多職種カンファレンスを中心としたチーム医療→地域へ逆紹介



医師	臨床心理士	特定看護師	糖尿病療養指導士・看護師	薬剤師	管理栄養士	健康運動指導士	患サポ・医事
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 多職種チーム医療の推進</li> <li>◇ 心血管合併症精査</li> <li>◇ 最近、特に著明に進化する糖尿病肥満の最新治療薬の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ (職場・家族など)患者の心理社会的な背景を把握</li> <li>◇ 糖尿病や肥満、ストレスとの付き合い方を考える</li> <li>◇ 効果的な治療のために患者さんとチームの橋渡しを担う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 入院中のインスリン量調整</li> <li>◇ 退院後も訪問看護師等と連携</li> <li>◇ 持続血糖モニタリング(CGM)での療養相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ インスリン・自己血糖測定・CGM導入</li> <li>◇ 合併症予防・フットケア指導等療養相談を行い患者さんが上手く糖尿病と付き合っているように支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 薬物治療への自己管理の重要性を意識づける為の援助</li> <li>◇ 患者さん個々に合った(生活スタイルに合わせた)薬剤選択のサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 入院中に適切な量と質の食事体験</li> <li>◇ 食生活の問題点の把握と退院後継続可能な食事量・バランスについての指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 有酸素運動と筋力運動</li> <li>◇ 退院後に向けての指導</li> <li>◇ 高齢者・高度肥満も含めての対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地域連携・退院支援</li> <li>◇ 地域包括ケア病棟の運用</li> </ul>

外来診療表	月	火	水	木	金	土
午前	★髭 ★細田(初診)	★髭	★細田 ★中前(内科)	★船曳 ★坂崎	★浮田 ★大屋 ★細田(初診)	★髭 ★坂崎 ★中前(内科)
午後			☆細田			

★… 予約優先 ☆… 再診予約のみ



## 呼吸器外科

6月からロボット支援手術を開始

呼吸器外科では本年6月からダビンチ(Da Vinci Xi)によるロボット支援胸腔鏡手術を開始しました。現時点での対象疾患は、ステージ1期の原発性肺癌、肺葉切除を要する転移性肺癌、良性縦隔腫瘍です。

従来の胸腔鏡手術では操作の制限がありました。ダビンチは360度回転する多関節アームを備えており、開胸手術でも困難な操作に対応します。加えて、手ぶれが制御されるため、繊細で複雑な手術を可能とします。

地域の先生方におかれましては、お気軽に患者サポートセンターまでお問い合わせください。



新センター長 杉江先生(左)、前センター長 中谷先生(右)

## 救急医療センター

スタッフを増強し新体制スタートへ

一昨年の救急救命士法改正により救急救命士が病院内で救急救命処置を行うことが可能となりました。これを受け当救急医療センターでは2023年4月から救急救命士を10名に増員。患者搬送から入院病床までの経路上での救命救急処置や医師・看護師の業務補助などで活躍しています。

本年9月より杉江亮神経救急部長が救急医療センター長に就任し、新体制でスタートしました。地域の救急医療にさらに貢献すべく、医師・看護師・救急救命士が一丸となり、救命措置のレベルアップに邁進しております。地域の先生方におかれましては、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



※写真は泌尿器科

